

「フルーツ王国、ベトナム」

石川 幸

ベトナムの経済的な首都と言われるのは、特別市であるホーチミンで、その人口は国内最大となる約900万人です。周辺を含めると約2千万人が住む大都市圏となっています。2023年にはベトナムの総人口が1億人に達する予測で、ホーチミン周辺だけで、ベトナムの約20%を占めています。東京都の人口が約1,400万人ですから、世界的にも巨大な市場であり、ホーチミンへの注目度も年々アップしています。

そんなホーチミンですが、初めて訪れた日本人の多くは、市内を走るバイクの多さと人の多さに驚かされます。道路を埋め尽くすバイクと人たち。賑やかなクラクション。活気に満ちた都市ですが、訪問回数を重ねるうちに、そのバイクの多さにも慣れてきます。

<年間通じフルーツ多彩>

ベトナムを代表する飲み物としてはコーヒーがよく知られていますが、食べ物で有名なのは多彩な「フルーツ」です。特にホーチミンがある南部では、年間を通じて多くのフルーツを味わうことができます。南部は、いわゆる南国で、一年を通して熱帯モンスーン気候で、日本と異なり、冬がありません。季節は雨季と乾季という2つの区分となります。そのため、一年を通してさまざまなフルーツを堪能できます

南国特有の代表的なフルーツとしては、ライチ、マンゴー、バナナ、ザボン、ランブータン、パッションフルーツ、グアバ、ドラゴンフルーツ、ドリアン、ジャックフルーツ、スターフルーツ、パパイヤ…。数え上げれば切りがありません。輸出が限定されたフルーツものも多いので、日本であまり知られていないものも多いでしょう。

これだけ豊富なフルーツですが、2022年の燃料価格上昇などインフレの影響から、スーパーでの小売価格は年率で5%前後の価格上昇が見られます。ただ、伝統的な市場内の露店では2021年と同じ価格で買えたりもすることがベトナム的な感じもします。多くのベトナム人は、日常的にフルーツを購入するとき、少しでも安いところで買い物をするという比較購買の傾向があります。そんなところも伝統的な市場では垣間見ることができます。



【価格が上昇しているスーパーの果物売り場】

こちらの記事は、昨年12月末に執筆し、中国新聞 SELECT「最前線ビジネスサポーター発」にも一部、掲載されました。



【ザボン】



【ドラゴンフルーツ】



【パッションフルーツ】